

市民まちづくり会議・むさしの 令和 2 年度第 1 回定例会記録

日時：2020 年 7 月 17 日（金）19 時～21 時

場所：吉祥寺商工会館 3F 消費生活センター講座室

出席：青木、内門、塩澤、篠原、竹山、中島、中村、西村、南、村井、山田（敬称略、50 音順）

武蔵野市都市整備部まちづくり推進課（中迫、吉田、森野）、計 14 名（定員内）

1. まちづくり推進課による「コロナ禍下のまちづくりについて」意見交換

吉田：都市マスの改定委員会意見では、新型コロナウイルス問題は 1～2 年で収まり仕事や生活の支障は解消するが、元には戻らない点は、①感染予防の継承、②働き方、学び方で IT 活用が加速すること、③都市空間やオープンスペースの重要性、農地の保全などが必要になり、ふれあう交流のまちづくりから新たなものに移行すること、④自動運転がエポックとなり、流通への期待や在宅勤務が増え、必要なれば家を出ない生活となるため、物流構造が一層変化し、道路の重要性が認識されるようになること、⑤公共交通は移動を必要としないテレワークのウエイトが増すことにより経済的打撃を受けることから、公共交通を維持することが課題になること、⑥緑の環境や開発事業における公開空地や提供公園の必要性、丁寧な作り込みが必要になること、⑦公開空地が重要になること（行政側の対策は遅いので、民間事業者がいち早く対応し、様々主体が対応する状況が生まれることから、実施までの行政との連携をより明らかにする必要性が出ることなどが各委員から指摘されている。みなさんのご意見もお聞きしたい。

山田：最近の経験のように、新型コロナウイルス感染の危険と豪雨や地震などの災害が複合化していく可能性が増しており、災害に対する備えが大事になる。リモートワークを経験したが、建設業のように現場があると、事務的な対応だけでは動けないことから、現場における物作りは暗中模索の状態にある。飲み屋街が疲弊し、廃業が増え、歯抜けが進んでいる。これまで以上にオープンカフェが必要な状況にある。

篠原：新型コロナウイルス問題によって、都市マスの課題でもある屋外の公共空間の活用がこれまで以上に必要かつ重要になることから、市としても相当なウエイトをかけて、これを進めていく必要がある。ソトノバ（<https://sotonoba.place/>）の HP に、仙台や沼津、浜松、佐賀などで道路空間の社会実験や飲食店支援の取組みが紹介されている。制度的には、

- ①都市再生特別措置法の一部を改正する法律案（2020 年 2 月 7 日閣議決定）による安全なまちづくり及び魅力的なまちづくり（特に「居心地が良く歩きたくなる」、空間の創出、エリアマネジメント、BID の推進）、
- ②道路法改正による「歩行者中心の道路空間：「歩行者利便増進道路」創設への動き、
- ③新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用許可基準の緊急緩和（警察庁交通局との調整済み）－などがある。

上記③は現時点では緊急措置だが、定着させていく必要があり、武蔵野市でも、国の方針に基づき、適切な公共空間、道路などにおいて、こうした取組みを推進するように都市マスに記してはどうか。

村井：公園のあり方に関心がある。休校で子どもは行き場がなく公園には子どもが多い。公園をどう管理するのか。武蔵野市はすべての遊具を使えなくしたが、練馬区はブランコなど単独で使える遊具は使えており、対応が違っていた。杉並区の基幹病院である河北病院は病院の前の空地を PCR 検査に使った。狭い病院や老人ホームなどは感染症が怖いので、施設内外において動線を分ける必要があり、オープンスペースを如何に確保し活用するかが重要な課題である。

また、自転車を通勤や買い物等で利用する人が増えており、自転車道路の整備が必要となっている。

塩澤：教訓として、外出を自粛したため、公共施設は役に立たなかった点がある。地元の緑町コミセンにおいても、完全にシャットアウトしても良かったのが疑問として残り、公共に頼っていたのではだめかなと感じ、自分たちで空間を確保する必要性を感じた。市民は共通認識をもって空間形成に努めるべきである。また、外部への依存度を減らすことが強い街を造ることにつながるのではないか。武蔵野市は7割が住宅地であり、農地や工場などの生産の場が少ない。たとえばマスクを自前で作成できるコミュニティの育成などが必要ではないか。

武蔵野市の人口約15万人のうち3分の1は都心に通勤していた訳だが、リモートワークが行われたことによって、通勤していた世代の方々がコミュニティに残った。これらの現役世代が地元に関心を持つことを期待したい。

中村：吉祥寺に住んでいるのでその話をしたい。武蔵野はエリアがはっきり分かれおり、中心部が発展し、周辺が次第に発展する方向で良かったが、サンロードに人が集中する結果になっている。第6期長期計画においても、集中と分散を考え直すことが課題になっているので、都市マスにおいても、この点を見直してはどうか。

竹山：新型コロナウイルスは若い人はかかっても大丈夫かもしれないが、中高年、や健康な老人が行くところなくなった。コミセンはクローズし、老人ホームの運営も大変である。老人は家から出られず、足が弱ってしまい、結果として認知症が増えているようである。老人のことはまったく考えてもらえてない。一日も早くコミセンを開けて欲しい。歌うのは感染症を広めると言われるが、老人の声は小さい。こうした小さな声の歌を歌う機会もなくなった。体操も歌も始めてもらいたい。いったい老人のことをどう考えているのだろうか。

内門：自分は年金生活者であり、足が悪いこともあり、基本的に生活は変わっていない。もう少し様子を見る必要があると思うが、いままで以上に、自転車道とか自転車利用を考えた方がよいと思う。

中島：都市マス改定委員による発言の前提となっているコロナウイルス問題が1~2年程度たてば本当に収まるのかは十分な情報がなく疑問である。RNAが変異し免疫も短く終わることも考えておく必要があり、非常に厄介な問題である。まちづくりを含めて、歴史的に社会生活は、一層大きな影響を受ける可能性がある。

集中を見直すことは賛成である。都心の地価は、大阪も同様だが下落している。都心に事務所をもつメリットが乏しくなり、事務所を撤退する企業もある。

朝の通勤は当たり前だったが、新型コロナウイルス感染の観点からは、非常に怖い。鉄道を複々線化する計画がこれから具体化しようとしていたが、これから乗車客が減り、難しくなるのではないか。

吉祥は、外からも来訪者があり、とても過密で違和感を持つ。今の過密な吉祥寺がなお、生き残っていけるのかは課題である。武蔵境は、武蔵野市の田舎であり、くつろげるので好きである。プレイスや西通り、独歩の森、農地があり、これを維持し活用していくことが課題である。

南：新型コロナウイルスの問題はこれで終わりではない。これからもいろいろな感染症が発生するリスクがあるので対応しておく必要がある。武蔵野市においても、武蔵野中央病院（私のマンションから2km）、栄光の園で7人、ヨーカ堂で1人の感染者が報道されており、いずれ、市内のマンションでも発生し、マンション単位のクラスターが出ることを恐れている。マンションの共用玄関等の消毒が必要と考え、私のマンションでは一定の時間でやるようにしている。マンションは結構リスクで、戸建ての方がよいと、郊外に出る人が増えると思う。マンション価格が下がるかもしれない。

テレワークが普及し、30~40代の人が増えて、市内に残ることになるので、これまで以上に公園などが重要になる。

ネットショッピングや生協の売り上げが増えている。小売り業は厳しい状況にあり、商業の限界がみえている。今後の中心市街地の中心は商業ではなく、その他の魅力を設ける必要があるのではないか。人が集まるまちづくりを商業に依存するのは限界ではないか。憩える空間をもっと増やすことによって、魅力あるまちづくりを行わないと、中心市街地が持たなくなるのではないか。人が集まるまちづくりをこれまで以上に真剣に考える必要がある。

青木：東部防災会の総会が開催され、避難所運営の考え方や流行時の避難行動について、体育館でシミュレーション行ったが、区画が狭くなるため、従前の避難所の考え方を見直す必要が出ている。

教育関係は、九浦の家だよりに本宿小のオンライン授業などの様子を掲載した。先ほどの歌の件だが、老人だけでなく、小学生も歌を歌えない状況にある。

コミセンについては、長い間、閉館を続けたことは恐縮であるが、開館したいとはいえなかった事情がある。6月の代表者会議を待って開館の準備をするという話が出て、ほとんどのコミセンは7月6日の月曜日に条件付きで開館した（7日開館もある）。8月15日までを開館の第一段階とし、8月16日以降の使用条件は市報8月15日号に掲載予定である（7月1日市報に掲載の通り）。

西村：コミセンをどうするのかについては不審に感じた。閉館に対してえっと思った。市の方からこうこうしろと言われてコミセンをクローズした経緯があるが、これは自主三原則からしてみればおかしいのではないか。結果として、突然、居場所がなくなってしまった。その後、ニュースは何とか出しているが、コミセンをどうするか。一部でよいので動かす方法を考えた方がよい。

吉田：ご意見、ご指摘ありがとうございました。今回は、5～10団体程度にヒアリングし、結果をまとめて改定委員に報告する。できるだけ市民等の実感を伝えたい。

改定委員会の運営は、新型コロナウイルスの影響で後ろ倒しになっているが、素案ができるのは今年の12月を予定している。その後、パブコメを行い、年度明けから再度パブコメを行う。縦覧も行い都市計画審議会にかけて、最終案ができ、冊子版にできるのは、来年7月位と考えている。

※これ以降、まちづくり会議の定例会となるため、市からの3名は退席。

2. 昨年のまちづくり基礎講座の総括と今年度の方針

塩澤：まちづくりを楽しむ基礎講座は、会員のリソースを還元しようということと、講師自身が楽しんで行うことを目標に開催した。自分としては、土地利用のあり方が武蔵野市は脆弱で、住宅だけの都市が弱みなのではないか、土地利用を純化させるよりも、もう少し複合化させた方がよいという発想から、住宅以外に何があるのかを考えた結果、農業と製造業があったので、残れる分野なのか、残れるのであれば応援したいと考えた。さらに、武蔵野市にはコンテンツ産業があり、すばらしいと考え、これらを紹介し、ものづくり、まちづくりで何ができるかを考えようとした。たとえば、地元の産業を記したTシャツを作成するプロジェクトや産業を巡るスタンプラリーなどがあるが、何か今年にはアクションを起こしたい。

篠原：塩澤さん以外は、前回の定例会で報告済みなので、今回は省略するが、9月には講師の成果をまとめ、今後のアクションにつなげるようにしたい。報告書の形式は、プロジェクトディレクターの塩澤さんの報告書にしたがえばよいので、9月の定例会までには、各講師はまとめておくようにしてほしい。

3. 古民家ウォッチング（西荻窪辺り）の提案

山田：次回も西荻窪辺りで企画するつもりである。村井さんからの提案もあり、外環用地部分を含めて、古民家ウォッチングを企画したい。外環については、なぜ道路を武蔵野市と杉並区の間にしなかったのかなど、地権者の問題を含めて考えたい。古民家と外環を組み合わせたウォッチングを9月に企画し、10～11月頃に実施する予定である。

4. 日赤奉仕団の活動報告

竹山：日赤奉仕団についてはあまり知られていないと考えたので報告したい。資料として「日赤奉仕団の活動と変更点

について」を配布したので参照して欲しい。日赤奉仕団は平成 31 年に結成 70 周年を迎えた。あまりご存じないかもしれないが、武蔵野赤十字の事務局は、市役所内にあり、地域支援課の職員 2 名が従事し、市長が武蔵野市の日赤地区長である。地域ボランティアで成り立つ日赤奉仕団は、市内に 13 分団あり、募金と奉仕活動を中心に行っている。歳末助け合いは民生委員中心で行い、奉仕活動としては、献血の募集、駅前などの募金を行っている。平成 26 年度の武蔵野市への配分金は約 1,524 万円で、赤十字子どもの家（のぞみの家）やミュ-就労支援センター-MEW など 7 件である。さらに、武蔵野市社会福祉協議会の 13 の福祉の会に 39 万円ずつ配分している。

最近の活動の変更点としては、「赤い羽根共同募金」での戸別訪問の廃止である。理由は、団員の減少と高齢化、ボランティアに対する認識の変化、マンションのセキュリティが厳しい、日中に家人がいないなどである。

お菓子は人気だが、募金は断られる。

詳しくは、配布した資料を参照いただきたい。

5. 武蔵野地区外環問題協議会について

西村：総会が明日 7 月 18 日に行われる（詳細は配布したレジメを参照）。外環のことが忘れられているのではないかと危惧しながら、住民は一生懸命やっていることを示すのが、今回の総会の目的なので、みなさまにも参加いただければ幸いである。

村井：外環地上部街路に関する話し合いの会中間まとめについては、コンサルは決まっていないが、都の担当は変わらないので、引き続き、まとめの作業に入る。新型コロナウイルス対策と、コミセンなど会場が確保できないため休止したようである。コンサルが決まれば始まると思う。

6. プレイス西通りの会報告

中島：プレイス西通りについては市と 2 回面談し、西通りの会で議論しつつ、最終的な提案書を作成しており、完成寸前の状況である。この提案書では、市が躊躇してきた都市計画の変更は、高架下の補助金問題を含めて、何ら問題がないことを示し、論点と対応策をすべて掲げてある。8 月中には市に提出し、来年中には予算計上を含め、都市計画決定変更に向けた具体的に動いてもらうことを目的に活動している。提案書の内容は、提出後、皆様にも回付したい。

なお、昨年から、女性の警官を配置するために、南口の交番を建て替え工事が行われており、一時的に、交番をプレイス前の公園に移動しているが、これは一時的な仮設であり、プレイス西通りの都市計画決定変更には関係ない。

7. 境山野緑地の雑木林再生事業の経過報告（欠席のため以下の通りメールによる報告）

田中：境山野緑地の雑木林再生地（通称：二小ゾーン、420 m²）は、順調に切株からの萌芽と実生の成長が進んでいる。伐採にとまない、野鳥、昆虫など生物の多様性が飛躍的に高まった。現状の風景を添付したので、ML による添付写真を見て欲しい。再生地 1 は、背景の高木は元のままの林で、手前の低い木が並んでいるのが切株からの萌芽（最も高いもので 4m ほどあります）。再生地 2 も、同様だが、少し角度を変えて撮影したもの。どちらの写真でも左側手前にある高い木は、開園時の記念植樹のヤマザクラである。二小ゾーンは皆伐（樹木を全部根本から伐ること）したのだが、このヤマザクラだけは市としても伐採できないとのことで残したものの。

なお、武蔵野市の緑ボランティア団体は、コロナ禍により 3 月より活動停止でしたが、5 月下旬の緊急事態宣言の解除に伴って活動再開した。それに伴い、武蔵野の森を育てる会の定例作業も 6 月より再開した。感染予

防策をとりながら、最低限の保全作業を行ってる（学生団体は今も活動停止中のため、まだ参加できない状態）。

8. その他

青木：女子大通り、配水管が破裂。4～50 件が被害を受けている。コミセンの閉館から開館までの話は九浦の家だよりの 1 頁目に記載した。

塩澤：昨年から NPO 法人武蔵野農業ふれあい村の理事になった。関前の農業ふれあい公園の運営主体である。都市農地貸借法により生産緑地を借りることができるようになり、農家の依頼で 5 月 1 日から武蔵境の生産緑地を借りて、施設栽培を始め、ミニトマトを作っている。都内でも NPO が生産緑地を借りるのは 2 例目であり、生産することが前提の貸借である。施設栽培の経験がなかったことから齊藤理事長が困り、日野市、東大卒の川名桂さんがアドバイザーとして参画してくれた結果、先週から収穫できるようになった。今までは販売活動はできなかったが、ここでは売らなければならない。販売は、月、水、金、土曜日の 10 時～12 時である。ミニトマト 5 色 300 円（300 グラム）、赤 1 色が 200 円（200 グラム）である（1 グラム 1 円で販売）。1 年更新の使用貸借で、成果を出さないと 1 年で終わりなので、みなさんにも購入して欲しい。連絡してもらえれば、市内についてはお届けする。

村井：旧赤星鉄馬邸（ナムユール・ノートルダム東京修道会院）は、モダニズム建築の記録と保存に取り組む国際的な学術組織「ドコモモ」の日本支部により、歴史的・文化的価値が高い「日本におけるモダン・ムーブメント建築」のひとつに選定されたので報告する。都内では、自由学園南沢キャンパスの建物群（東久留米市）と共に 2 件の選択である。

中村：大学に入学し、現在はランドスケープを課題としているので報告する。将来は地域環境などを仕事にできればよいと考えている。大学は後期もリモートによる授業だが、工学系は実務があるのでどうやるのかが課題。リモートではやりきれないと思われる。

以上／記録作成：篠原